

JACS NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニュースレター

第23巻第2号

発行日●2015年12月14日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

第51回 消費者行動研究コンファレンスの概要

<統一論題> 感情と消費者行動

秋の消費者行動研究コンファレンスは、下記のように開催されました。

第1日目には、自由論題報告、懇親会が行われ、第2日目には、統一論題報告、パネルディスカッションが行われました。

—開催概要—

開催日程： 2015年11月7日(土)・8日(日)
会場： 小樽商科大学(北海道小樽市)
研究会参加費： 4,000円[学生:2,000円]
懇親会参加費： 5,000円

	〔第1日目〕		〔第2日目〕
10:25 - 10:30	開会の辞	10:30 - 12:15	統一論題報告
10:30 - 12:00	自由論題研究報告 I	11:45 - 12:45	昼食休憩(編集会議)
12:00 - 13:30	昼食休憩(役員会)	13:30 - 15:30	統一論題講演・シンポジウム
13:30 - 15:00	自由論題研究報告 II	15:30	閉会の辞
15:15 - 16:55	JACS 論文プロポーザル賞		
17:00 - 18:30	会員総会		
18:00 -	懇親会		

第52回 消費者行動研究コンファレンスのお知らせ

現在、コーディネーターの三浦先生(中央大学)、坂下先生(慶應義塾大学)、山本奈央先生(名古屋市立大学)を中心としてプログラムを検討中です。

開催日程：2016年6月18日(土)・19日(日)

開催場所：関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパス(兵庫県西宮市)

—統一論題—

「感情と消費者行動」

澁谷 覚（東北大学）

私たちが日常生活の中で体験する感情には、「両手を突き上げて走り出したいぐらいうれしい」のようなきわめて強い情動と、「なんとなく浮き浮きした気分」といった弱い感情があります。これらの感情は、私たちの判断や評価、予測、記憶などに大きな影響を及ぼしていますが、その影響については、古くから人間の論理的な判断や正しい意思決定を歪ませ誤った方向に干渉するものと考えられてきました。しかし近年では、感情の役割に対して新たな角度から光が当てられるようになっていきます。

例えば人間が何らかの刺激に相対したときに即時的に生じる感情的な反応は、反応者が当該刺激に対してどのように行動すればよいのかを瞬時に教えてくれる重要な信号として機能している、という考え方が近年提示されています。この考え方によれば、対象に対して時間をかけて行う論理的・意図的な判断に先行して、瞬時の感情的評価を行うことによって、私たちは当該対象に対して獲得（「かかれ！」）や回避（「逃げる！」）などの準備をすることができ、結果として対象の入手または拒絶・回避がより成功しやすくなるのです。

私たちは、身の周りの出来事や他者に対して最初に感情的反応が生起することを避けることができません。このような反応には意図や自覚が伴わないからです。そしてこうした自動的かつ即時の感情的反応は、後に続く判断形成の基礎となると最近では考えられています。つまり意図や自覚なく瞬時に生起する自動的かつ感情的な評価のプロセスは、私たちが世界をどのように見て、どのように判断し、どのように行動し記憶するかの基礎を作るのです。

このような感情が、私たち消費者の行動や判断にどのような影響を及ぼしているのか、企業やマーケターは、消費者行動にこのような感情に対してどのように向き合い、対処し、あるいは利用することが出来るのか、ということを今回の統一論題では議論したいと思います。

基調講演のお一人目としてご登壇いただく経済産業研究所の関沢洋一先生は、以上のような近年の感情研究への関心の高まりを背景に、

感情が消費者行動に及ぼす影響をマクロ的な観点から研究されており、近著「感情が消費者行動に及ぼす影響についての予備的研究」（『行動経済学』, 2012年）では、抑うつや不安が消費者態度に及ぼす影響を測定することを通じて、リスク評価が消費者態度にもたらす影響を考察されています。

基調講演のお二人目の立命館大学のルディー一和子先生は、すでに2005年のご著書『マーケティングは消費者に勝てるか』で、消費者の無意識の判断の重要性や、これに対して企業はどのように対応すべきかを議論されており、また近著の『合理的なのに愚かな戦略』（2014年）では、経営者の判断における潜在意識や感情などの影響について、切れ味するどく論じられています。

統一論題報告に登壇いただく上智大学の杉谷陽子先生と関西学院大学の石淵順也先生は、ともに消費者行動やマーケティング・サイエンス、社会心理学等に広がる幅広いトピックについて研究されてきた気鋭の研究者で、今回も統一論題に関するユニークかつ興味深い議論を伺うことがとても楽しみです。

最後に、今回のシンポジウムで司会を務めてくださる東京経済大学の岸志津江先生は、長年にわたって消費者行動や広告、マーケティング、メディア等の領域で幅広いご研究を続けて来られた中で、消費者行動における感情の役割や、感情と認知の関係についてもいち早く着目され、研究されています。

以上のような先生方をお招きして大会2日目に開催される統一論題シンポジウムでは、感情と消費者行動にまつわる幅広いトピックに渡って興味深いご報告と議論が展開されることと楽しみにしています。

最後に、本大会の開催にあたって会場を提供くださり、事前準備と当日運営にご尽力をくださった小樽商科大学の近藤公彦先生、鈴木和宏先生、幹事として多大なご協力をいただいた上智大学の杉谷陽子先生と成蹊大学の井上淳子先生、学会事務局の武田様にもこの場をお借りしてお礼を申し上げます。【Web版からの再掲】

2014 年度決算報告および 2015 年度予算案

2015 年 6 月 6 日に開催された役員会および会員総会において、2014 年度の決算報告および 2015 年度の予算案が下記のとおり承認・決定されました。ここにご報告いたします。

2014 年度決算報告	
〔収入の部〕	
1. 会費(2014 年度分)	6,880,000
学術会員	3,910,000
学術学生会員	300,000
個人賛助会員	220,000
法人賛助会員	1,250,000
滞納等	1,200,000
2. コンファレンス収入	2,800,000
3. 学会誌販売	0
4. 前年度繰越金	32,545,498
5. 協賛金	0
合計	42,225,498

〔支出の部〕	
1. 印刷費	350,000
ニュースレター	100,200
会員名簿	250,000
2. 事務費	2,650,439
学会誌印刷・発送一式費	1,800,000
通信費	200,000
Web ホスティングサービス利用費	50,000
ホームページ英訳・リニューアル費	100,000
その他	500,000
3. 事業運営費	4,750,000
コンファレンス支出	2,800,000
コンファレンス開催校補助費	400,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	300,060
査読システム運用費	250,000
国際交流事業費	400,000
プロポーザル賞賞金	500,000
広報活動費	100,000
4. 予備費(出版システム開発費)	1,868,000
5. 次年度繰越金(論文集作成費他)	32,607,498
合計	42,224,498

2015 年度予算案	
〔収入の部〕	
1. 会費(2015 年度分)*	7,805,000
学術会員	4,530,000
学術学生会員	415,000
個人賛助会員	285,000
法人賛助会員	1,600,000
滞納、超過入金等	975,000
2. コンファレンス収入	2,130,000
3. 学会誌販売	0
3. 前年度繰越金	34,406,548
4. 協賛金	0
合計	44,341,548

* 名誉会員 2 名は含まず

〔支出の部〕	
1. 印刷費	550,000
ニュースレター	300,000
会員名簿	250,000
2. 事務費	2,950,000
学会誌印刷・発送一式費	1,800,000
通信費	200,000
Web ホスティングサービス利用費	50,000
ホームページ英訳・リニューアル費	400,000
その他	500,000
3. 事業運営費	5,000,000
コンファレンス支出	2,800,000
コンファレンス開催校補助	400,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	350,000
査読システム運用費	250,000
国際交流事業費	500,000
ワークショップ開催費	200,000
プロポーザル賞賞金	500,000
広報活動費	0
4. 予備費	1,868,000
出版システム開発費	250,000
事務委託費	1,618,000
5. 次年度繰越金(論文集作成費他)	33,973,548
合計	44,341,548

上記の通り報告いたします。
上記の報告を適正なものとして認めます。

事務局担当理事 松下光司 印
監事 松井剛 印

学会賞受賞者のお知らせ！

第 51 回消費者行動研究コンファレンスにおいて、学会賞各賞の受賞者が発表されました。

日本消費者行動研究学会優秀賞および日本消費者行動研究学会研究奨励賞（青木幸弘賞）の対象論文のうち、受賞者は、次のように決定されました。

日本消費者行動研究学会優秀賞：該当なし

日本消費者行動研究学会研究奨励賞（青木幸弘賞）：

「機能疲労がリピート購買行動とロコミ行動に及ぼす影響」

神田晴彦（筑波大学大学院）

※本論文は 2 名による共著ですが、学会賞に関する規定（年齢制限）により、1 名での受賞となります。

また、今回で第 15 回を迎えた JACS-IBM 論文プロポーザル賞については、例年どおり秋のコンファレンスでのプレゼンテーションにもとづく審査により決定されました。受賞されたのは次の方々です。

最優秀賞：該当なし

優秀賞：

「ブランドの本物感の研究」

田中祥司（早稲田大学大学院）

「消費者の気分が製品の容量判断に与える影響」

河塚悠（慶應義塾大学大学院）

当論文プロポーザル賞は、学会での報告により、自分の研究を客観的な視点から捉え直すことのできる貴重な機会として位置づけられています。また、当プロポーザルをもとに進められた研究は、完了次第『消費者行動研究』への投稿が求められています。

JACS の新体制がスタートします！

2015 年 11 月 7 日に開催されました会員総会において学会役員が改選され、この 4 月より、竹村会長のもとで新体制（2015～2016 年度）がスタートします。

会 長：竹村和久（早稲田大学）

副会長：南知恵子（前会長・神戸大学）

清水聰（次期会長・慶應義塾大学）

国際学会派遣事業(海外発表助成)のお知らせ

日本消費者行動研究学会では、学会のグローバル化推進の一環として、学会員の海外学会発表（ポスター・セッションを含む）に対する助成を行っています。**今年度の応募締切り（2015年12月20日）が迫っています**ので、奮ってご応募ください。なお、申請時には**報告予定でも構いません**。発表が不採択となった場合には、渡航費に関する助成金は返還していただきますが、英文校閲費に関しては、領収書をお送りいただければ返還の義務はありません。

助成内容

1. 渡航費：上限 20 万円
2. 英文校閲費：上限 5 万円

応募要領

宛先：日本消費者行動研究学会事務局宛て（jacs@asas.or.jp）に、海外発表助成への応募を明記したメールを送ってください。

記載事項：申請者名および発表者全員の氏名（少なくとも1名が会員であれば応募可能です）、発表学会名、発表時期（**来年度の発表も応募可能です**）、発表論題

応募締切日：2015年12月20日

採否の通知：会長・副会長、理事によって助成対象者を決定の上、2016年1月20日までに採否について事務局より連絡いたします。

採択者の義務

1. 発表の翌年度に行われる消費者行動研究学会にて、採択された発表と同一の論題を報告していただきます。
2. 採択者の氏名が記載された学会のプログラム、上記の助成内容 1.に関しては航空費が明記された書類（e チケットの控えおよびそれに準じるもの、PDF などのソフトコピーでも構いません）、同じく 2.に関しては英文校閲費の領収書を提出して下さい。

名簿の電子化

昨年来、学会員の個人情報の保護の観点から、紙媒体による名簿の出版に代わって会員名簿の電子化について議論がなされ、本年度中に電子化して会員の皆様に提供することが決定されました。

本年10月より学会のホームページ上で公開されており、利用することが可能となりました。学会ホームページのトップページにありますバナー(オンライン会員名簿)からご利用下さい。ご利用に当たっては、10桁の会員番号とパスワードが必要となります。10桁の会員番号は郵便物のラベルに記載されておりますのでご参照下さい。

パスワードは以前に郵送でお送りしておりますが、ご不明の際には事務局（学会支援機構）までお問い合わせ下さい。なお、当面自宅住所は非公開という対応をさせていただきます。紙媒体で印刷を許可して頂いた会員の皆様にはご不便をお掛けします。

データの移行の関係で今回対応出来ませんでした。再度公開範囲について検討を進めていく所存です。また、紙媒体の出版については来年度以降に再検討をする予定です。

学会費の「銀行振込み」についてのお願い

銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mail にてご一報いただきますようお願い致します。

ご所属・ご住所の変更についてのお願い

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。就職や異動などの慌しさが一段落したらで結構ですので、お手数ではございますがよろしくお願い致します。

また、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記いただく方がおりますが、手続上、データベースの修正は年度末となってしまいます。変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。なおホームページからもお手続きいただけますので、ご活用ください。

新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は、ホームページから入会申込書をダウンロードの上、必要事項を記入、捺印の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

●入会資格**[学会会員]**

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学会会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

●年会費

[学会会員] 10,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円

法人会員 1 口 50,000 円

●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●

(事務局) 関西学院大学 商学部 須永努研究室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
Email: sunaga@kwansei.ac.jp

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21 (IBM 内)
TEL: 03-5643-5450 FAX: 03-3662-3271 Email: jacs@jacs.gr.jp

<JACS Website>

<http://www.jacs.gr.jp/>